

現職日本語教師研修のための聴解・読解教材開発 - 「言語行動の韓日比較」を中心に -

杉浦千里 小野寺志津 鶴町佳子

要 旨

新たに韓国京畿道の現職日本語教師のための研修が行われることになり、研修用の教材を開発した。その一部として「言語行動の韓日比較」をトピックとしてビデオ教材、読解教材を作成したので報告する。日本人と韓国人との間に生まれる誤解を明示し、それについて日韓両者の立場から考察し、理解を深めると同時に、日本語能力の向上につながることを意図した。

【キーワード】言語行動 統合シラバス 内省 ステレオタイプ

Development of Listening and Reading Materials for Japanese Language Teachers In-service Training : a comparison between Japanese and Korean verbal behavior

SUGIURA Chisato, ONODERA Shizu, TSURUMACHI Yoshiko

【Abstract】 This is a report on the listening and reading comprehension section of teaching materials for a in-service Japanese teacher training program for Korean native speakers. The goals of the materials are to make the trainees understand the differences between Japanese and Korean verbal behavior and to develop their Japanese language ability.

【Keywords】 verbal behavior, integrated syllabus, introspection, a stereotype.

1. はじめに

韓国の京畿道外国教育研修院で行われる日本語研修(以下、「京畿研修」とする)のために開発した教材について報告する。この研修は韓国京畿道の高校で日本語を教える韓国人現職教師(以下、「研修生」とする)を対象とし、日本語運用能力と教授能力の向上を目的とするものである。今回、作成したのはそのうちの一部で、日本人と韓国人の言語行動の違いを素材として、聴解と読解を主とした教材作りを行った。

2. 教材の作成過程と概要

2.1 作成過程

まず、この京畿研修に関わる教員全体で数回の会議が持たれ、研修の枠組み作りが行われた。まったく新しい研修用の教材を複数のメンバーで作成するのは、新しい世界観を構築するようなもので時間を要したが、次のような枠組みとなった。

- ・研修生の負担を減らし、学習効果を上げるために「統合シラバス」を採用する。
- ・読解、聴解、会話・作文、文法の各技能のバランスに配慮する。
- ・研修生に対して行った事前アンケートを参考にして、トピックを選択する。
- ・教材作成者と授業担当者が異なることを想定し、使いやすい教材を目指す。
- ・研修生の日本語能力差に対応できるよう、難易度に配慮してタスクを作る。

これを受けて「変化する日本語」「日本人の特質」などの大きなトピックを取り上げることになり、筆者らは「言語行動の韓日比較」に関する教材を作ることになった。筆者3名のうち2名は数年の韓国滞在歴があり、韓国人とのやりとりの中で、外見は似ているのに異なる考え方や言動に困惑することが多く、それが双方の深い誤解の原因にもなるという経験を持つ。そして、それを考え続けることが、自文化を客観的に見つめ、多文化を相対的に捉える機会になることを学んできた。今回の研修に当たって、韓国の高校生たちを教える先生方には、単に日本語という言語形式を教授するだけでなく、その言語を使用している日本人の考え方にまでも踏み込んで教えることで、韓国の高校生に自文化を、ひいては自分自身を見つめなおす機会にしてほしいという意図でこのトピックを選んだ。

次に、筆者らは日本在住の韓国人留学生(女性、20代、1名)の協力を仰いで、インタビューを行った。日本人とのやりとりの中で生じる問題点、居心地の悪さを感じる点、韓国人の目には奇異に映る日本人の行動などについて話してもらった。この内容については後述するが、普段何気なくとっている行動が実に様々な意味に変換されて、他の文化を持つ人に伝わっていることに気づかされた刺激的な時間であった。他の教員からのアドバイスも受け、この中から「初対面」「男ことば・女ことば」の2つをトピックとして教材作成を始めた。

さらに筆者らで検討を加え、次のような形式を取るようになった。

- ・それぞれのトピックに沿って聴解用ビデオ教材を作成する。

- ・ビデオの視聴はクイズ形式で楽しく見られるように工夫する。
- ・読解教材は聴解用ビデオ教材と関連させ、相互補完的な内容になるよう配慮する。
- ・視聴・読解した内容について話し合い、それを文章にまとめるタスクも設ける。
- ・筆者らの一方的な解釈を強要するような形式を取らない。

ここまでのいわば「頭の中」の作業に基づいて、次に具体的な作業に取り掛かった。それぞれのトピックごとにいくつかのスクリプト（台本）を作成し、筆者3名で検討を加えて最終案を決定すると同時に、出演者探し、日程調整、撮影機材の準備、撮影場所の設定等を行った。撮影は2日程度で済ませ、それを基にタスクシートの作成、映像の編集を同時進行で行い、筆者間での検討を経て最終的に教材は完成した。トピック決定からおよそ1か月の強行軍だったが、それがかえって集中して作業を進める勢いにもなった。

2.2 概要

対象、目的、学習時間、内容、構成は、以下のようになっている。

- (1) 対象 象：韓国京畿道の高校で日本語を教える韓国人現職教師。
年齢は40代から50代後半。日本語の能力にはばらつきがあり、中級から上級のレベル。
- (2) 目的：日本語運用能力と教授能力の向上。
- (3) 学習時間：54時間（*必須時間のみ。研修全体は75時間）
- (4) 内容および構成：内容は3つのユニット（表1）、日本語教授法（表2）、日本語を楽しむための特集（表3）からなっている。

表1：3つのユニット

	ユニット1 変化する日本語		ユニット2 日本人の特質		ユニット3 言語行動の韓日比較	
	トピック1	トピック2	トピック3	トピック4	トピック5	トピック6
聴解	ら抜きことば	若者ことば	せっかちな日本人	日本人の時間意識	初対面	男ことば・女ことば
読解	あいまい表現	マニュアル敬語	せっかちな日本人	日本人の時間意識	初対面	男ことば・女ことば
会話・作文	待遇表現	伝言	意見を述べる(1)	意見を述べる(2)	比較・対比する(1)	比較・対比する(2)
			意見を述べる		比較する・対比する	作文フィードバック
文法と誤用分析	「(ら)れる」の意味	自動詞・他動詞	使役	副詞 / 擬声語・擬態語	授受表現	自作文法教材作成

表 2 : 日本語教授法

日本語教授法
第 2 外国語としての日本語教育を再考する
授業の実際を考える (1): 計画の立案、導入
授業の実際を考える (2): 基本練習
授業の実際を考える (3): 基本練習、応用練習
授業の実際を考える (4): 計画を立てる
評価・テストを考える

表 3 : 特集 : 日本語を楽しむ

特集 : 日本語を楽しむ
日本語のリズム・七五調
言葉のあそび
落語

筆者らが担当した部分の詳細は表 4 の通り。学習時間は、両トピックとも聴解が 75 分、読解が 90 分となっている。聴解と読解は関連しているが、どちらを先に行ってもかまわない。研修生間に日本語運用能力の開きが大きいことが予想されるため、タスクは必須のものと、「チャレンジ」としてやや難易度の高いものの 2 種類を用意した。

表 4 : ユニット 3 「言語行動の韓日比較」の詳細

言語行動の韓日比較		
トピック 技能	初対面	男ことば・女ことば
聴解 (75 分)	スキット 1 . 初対面 スキット 2 . 言葉が短い! スキットに関するタスク	スキット 3 . だれからのメール? スキット 4 . じゃあな! スキットに関するタスク 参考資料「現代の若者会話における文 未表現の男女差」
読解 (90 分)	読み物 1 . 先生、きれい! 読み物 2 . 年齢はいくつですか 読み物に関するタスク 参考資料 『箸とチョッカラク』 『言葉と文化の日韓比較』 『異文化トレーニング』	読み物 3 . 男女の言葉づかいの実態と それに対する意識 読み物に関するタスク 参考資料「ジェンダーとことば」

3. トピック「初対面」 作成の意図と構成

日本語にも韓国語にも敬意を表す敬語の体系があり、また、親しみを表すための常体の表現もある。相手との関係によってスピーチスタイルをシフトすることにも変わりはない。にもかかわらず、「日本人は冷たい、友達になりにくい」とか、「韓国人はプライベートなことまで何でも知りたがってうとうしい」など、日韓双方から不満が聞かれる。これはそれぞれが「相手と親しくなりたい」と好意的に行う言語行動の違いから生じると考えられる。具体的には親疎の距離感、自己開示の方法の違い、スピーチスタイルのシフトルールが問題になる。

ここでは研修生がビデオ教材を通じてこれらの問題を実感し、日本人の言語行動を支える考え方を理解すること、また、日本人韓国人両者の主張に耳を傾けることで、研修生自身の言語行動を客観視する機会になることを意図した。さらに以下の点を具体的な目標とした。

対面の場面での韓国人と日本人の行動の違いを知る。

の違いが生じる原因である考え方について知る。

スピーチスタイルについて知る。

スピーチスタイルの選択基準と日韓での相違を知る。

異なる行動様式を取る人との付き合いにおいて、自分自身がどのような行動をとっているかを内省し、自分自身の「常識」について考える。

異なる行動様式をとる人とどのように付き合うか、方策を考える。

関連する文章を読んで理解を深める。

自分自身の考えをまとめて日本語で述べる。

異なる意見を持つ人と日本語で意見交換する。

自分自身の意見を日本語で書き表す。

ナチュラルスピードの日本語を聞き取り、発話意図をつかむ。

新しい語彙や表現を学び、それらを聞く、読む、話す、書く。

3.1 聴解

2つのビデオ教材を作成した。スキット1「初対面」では自己開示の問題を扱った。30代の日本人女性と韓国人女性が初めて会った場合、どのような会話が展開するだろうか。奥山(2000)の調査によると、「韓国人は相手への個人的で積極的な質問を多数行い、同時に自分自身についても多く伝えることで、相手との距離を短時間で縮めようとする。一方、時間をかけて徐々に相手と親しくなることを好む日本人にとっては、このような急激な自己開示は負担になるし、時には不快に感じることもある」という。このような日本人の様子を見て、なぜこの人は誠実な対応をしないのだろうかと理解に苦しむ韓国人も多いだろう。しかし、現実にはその疑問を投げかけることができないまま、両者は疎遠になっていくのではないか。そこで次に、この日本人がどう思ったかを三択クイズの聞き取り問題として作成した。その後、二人のそれぞれの「心の声」を聞いて解答とする。

さらに、このスキットを2人の日本人に見てもらって、日本人が「普通だ」と考えるのはどのような自己開示の仕方なのかをインタビューしたビデオ教材を視聴する。最初の人工的に作成したスキットに比べると、聴解の難易度は上がるが、複眼的な視野を得て考察を深めることをねらった。

最後にこれまでに理解したこと、感じたことについて意見交換を行い、作文としてまとめることを課題にした。

スキット2「言葉が短い!」では、スピーチスタイルシフトの違いについて取り上げた。日本人同士の会話にあって「です・ます体」から「常体」に切り替える際、親疎の距離感や場面性は重要だが、年齢についてはどうだろうか。ある程度の差なら、年下が年上に向かって「常体」を使うことは可能だろう。また、かなりの年齢差があってもある場面では親しみをこめてあえて「常体」を用いることもあるだろう。韓国語にも親しみを表すスピーチスタイルがあるが、「年齢」は非常に重要な要素なので、年下が年上に「常体」のスタイルで話すことは許されない。このスキットでは韓国人留学生と2、3歳年下の日本人大学生が登場する。同じ研究室に所属している男子学生という設定で、日本人大学生は親しみをこめて「常体」の日本語で韓国人学生に話し続ける。韓国人留学生はやがてその言葉遣いに腹を立て、「ことばが短いね!」と捨て台詞を残して出て行ってしまふ。これは韓国語の表現を直訳したもので、「丁寧なことばで話せ!」という意味になる。このスキットを見たあと、スキット1と同様に、三択の日本人大学生の意見をクイズにしたものと、両者の「心の声」が続き、意見交換と作文が課題となっている。

3.2 読解

ここでは2つの文章を教材化した。読み物1「先生、きれい!」は3.1の「言葉が短い!」に関連しており、スピーチスタイルと年齢を巡る日韓の言語行動の違いを取り上げ、読み物2「年齢はいくつですか」は3.1の「初対面」と同様、自己開示の問題を扱っている。授業の流れとしては以下のように想定した。新出語彙と表現は事前学習を課す。授業ではタスクブックに沿って本文を読み進める。タスクは内容の正誤問題、指示詞の示す語を問う、内容の要約、類推して読む、省略されている主語を補いながら読む等、多様な「読み」ができるよう工夫した。読解を終えた後はその内容について研修生間で意見交換を行い、さらにそれを文章にまとめることを課した。その際、事実と意見を明確に分けることを指示した。

読解と聴解はコインの表と裏のような関係にある。同じトピックを技能を変えて学ぶことで、より深い理解と考察が行えるのではないだろうか。

4. トピック2「男ことば・女ことば」 作成の意図と構成

外国語が母語かに関わらず、言葉を使う時に留意しなければならないのは、選択したその言葉が個人のイメージを形成するという点だ。韓国語と日本語は語順や語彙が似ているため、単純に翻

訳しても通じることがしばしばある。双方ともに敬語の体系と常体の表現を有しており、常体が親しさを表現することも同様だ。だが、この常体表現を直訳すると、思わぬ誤解を招き個人のイメージを損ないかねない。

このような誤解が生じる原因に、言葉の性差がある。現在は消えつつあるといわれながらも、日本語には「男ことば」「女ことば」と呼ばれるものが存在する。もちろん韓国語にも、男性が好む、あるいは女性が好む表現や語彙はあるが、日本語で言うところの「男ことば」「女ことば」は存在しない。

ここでは、研修生がビデオ教材を通じ、(1)母語から日本語への単純な翻訳が思わぬ誤解を生むこと、(2)その誤解を生み出すもののひとつに日本語の「男ことば」「女ことば」がかかわっていること、(3)さらにその誤解が、発話者本人のイメージを左右するという気づきを得ること、(4)これまでの自分の日本語を内省することを目指した。教材の作成にあたり、以下を具体的な目標とした。

言葉の性差の存在を認識する。

語尾の選択基準とその日韓の相違を知る。

性別、および親疎による語尾の変化を知る。

日本語における、話し言葉と書き言葉の差異を認識する。

選択した言葉が話者自らに与える影響を考える。

関連する文章を読んで理解を深める。

情報の整理のしかたを学ぶ。

自分自身の考えをまとめて日本語で述べる。

異なる意見を持つ人と日本語で意見交換する。

自分自身の意見を日本語で書き表す。

ナチュラルスピードの日本語を聞き取り、発話意図をつかむ。

新しい語彙や表現を学び、それらを聞く、読む、話す、書く。

4.1 聴解

聴解では、「誰からのメール?」「じゃあな!」という2つのビデオ教材を作成した。「誰からのメール?」は、スキット、学習者への問いかけ、日本人からの短いコメントという構成になっている。ここには、性別による語尾の変化、書き言葉と話し言葉の差異、直訳がもたらす弊害という要素を盛り込んだ。スキットに登場する次のeメールから、書き手の性別は一般的にどちらと判断されるだろうか。またその理由は何だろうか。

「元気か。何も問題ないだろ。たまには連絡しろ」

このeメールの書き手は韓国女性だが、ほとんどの日本人は、書き手を男性だと判断するだろう。しかし、これを韓国語に直訳すると、ごく親しい友人へのメールとなり、書き手の性別は問わない。韓国側から立てば母語表現を直訳しただけで、しかも語彙の訳自体は決して間違っていない。

いのだが、これを読んだ日本人は書き手の性別を誤解してしまう。このような単純な訳による弊害は、書き言葉、話し言葉を問わず存在している。

スキットでは、韓国人女性が韓国語をつぶやきながらメールを書いている。こうすることにより、スキットを見ている研修生は、彼女が親しい友人に対する一般的な韓国語を使用していること、相手を気遣ってわざわざ日本語で書いていることを知る。しかし、韓国語の話し言葉を直訳したメールを見て、複数の日本人が、書き手を男性だと判断する。それはなぜなのか。その理由を研修生に問いかけて、スキットはメールを見た日本人からの短いコメントへと続く。その中で、eメールの書き手が選んだ語尾が「男ことば」で、そこに問題があることが明らかになる。

続くスキット「じゃあな！」は、スキット、問題提起、三択クイズ、心の声(日韓それぞれの言い分)という構成になっている。ここでは、言葉の性差の他に、話し言葉における語尾の選択に焦点を当てた。親しさの表現として「です・ます体」から「常体」へとシフトをはかる韓国人女性が、そのお手本に日本人男性を選んだことで、知らぬ間に彼女自身のイメージを損なっている。「じゃあな！」という言葉とともに去った韓国人女性に対し、日本人がどんなイメージを抱くかが三択クイズとなっており、その後、それぞれの心の声へと続く。

両スキットには言葉の性差だけでなく様々な要因が絡み合っているが、最も重要なのは、言葉によって話者のイメージが形成されるということだ。つまり、男ことばで話す女性が乱暴だと思われることや、女ことばで話す男性があらぬ誤解を受けることが大きな問題なのだ。そこで最後に、言葉の性差という境界線を越えるとどのようなことになるか、さらに自らの日本語を振り返り、それが自分自身にどのような影響を与えているのかを考え、話し合うという課題を設けた。

4.2 読解

ここでは、日本語における男女の言葉遣いの実態と意識について書かれた論説文を、教材として取り上げた。論説文を取り上げたのは、研修生に様々なテキストタイプに触れてもらいたいと考えたためである。他のトピックではエッセイタイプの文章が多い。ここで取り上げた文章は、男女言葉の実態に関する2つの論文と、男女言葉に対する意識に関する2つの調査報告を紹介し、最後に筆者の考察を加えるという構成になっている。このような文章は情報が過密なため、それを意識的に整理しながら読む必要がある。ここでは、そのためのタスクをいくつか取り入れることで、論説文を読む技能をつけることもねらいの一つとしている。

授業の流れは、基本的にトピック「初対面」と同じく、事前学習として語彙・表現の確認を行い、次に教室内活動としてタスク読み、読後の意見交換をする。そして授業後にまとめとして意見の文章化を課す。以下に、具体的な学習の流れに沿って、教材の内容と構成を示す。

教室で本文を読み始める前に、より深い理解を得るため、いくつかの準備活動を行う。まず、本文中の語彙と表現を確認する。そして、有名韓国ドラマのシナリオの一部分を日本語に翻訳したものを、男女の言葉遣いの差に注意しながら読む。これは、男女であまり差がない韓国語の台詞が、

日本語になるとどのように変化するかを意識化するためである。ここまでを授業前の予習として課す。

教室内でも、まず同じドラマの別のシーンの男女の会話を読み、他の学習者とともに男女の言葉遣いの違いを確認する。また、戯曲はある意味理想の男女の言葉遣いだが、実際のそれとは異なっているので、研修生自身が実際にそれまで見聞きしてきた日本語とシナリオの日本語とを比較してみるという活動も行う。これにより、日本語において男女の言葉遣いには違いがあるが、最近はその差がなくなりつつあるという本文の背景について理解することになる。こうした読解前活動の後に、本文を4つのパートに分けて読み進めていく。論文や報告について紹介している部分では、内容を整理したチャートの空欄を埋めたり、内容の正誤判断をしたりするタスク、筆者の考察について述べている部分では、内容の要約文を完成させて全体の理解を問うタスクなどを設けた。

読解後は、読み取った内容に関連して、韓国語における男女言葉やそれに対する意見などを研修生同士で話し合い、さらに文章としてまとめることを課題とした。

5. 作業前インタビュー

2.1でも述べたように、今回の教材を作成するにあたって行った韓国人留学生へのインタビューは大変有益だった。ここからいくつかのアイデアが生まれてビデオ映像として結実したが、それ以外の大部分は残念ながら活かされることがなかった。今後、機会があれば教材化してみたいものばかりである。

「日本人と付き合うことで感じる違和感、驚いたことなどについて話してください」という問いに以下のようなエピソードを披露してくれた。

- ・日韓の友人4人で鎌倉に行った。食事のあとで、日本人の友人が自分の分だけケーキを注文して、自分だけが食べた。注文するとき、他の人に食べるかとも聞かない。おかしい人だと思った。韓国ではジュース一本買うのにも周りに気を遣うのが普通だからだ。反面、それを負担に感じることもあるので、日本に来て気が楽になった部分もある。
- ・日本に来て、看板に「止まれ」と書いてあってびっくりした。こんな乱暴な命令形を使うとは思わなかった。日本人はとても丁寧な言葉遣いをすると国で習ったので意外だった。
- ・なぜはっきり言わないのだろう。日本人の友人がケーキを食べて「私、これ好きかも…」というのを聞いて心底驚いた。自分の味覚も自分でわからないのか。言い切ることができないのか。
- ・何かについて発言するとき、「私だけが知らないのかもしれませんが…」 「間違っているのかもしれませんが…」と、まず言い訳をしてから始める。あとで反論されたときの保険なのか。とても奇異に感じた。

6. 今後の課題

ここまで、筆者らが担当して作成した教材について、その意図や構成・内容に関して報告してきた。対象者である研修生の情報も少なく、また短期間での作成だったため、教材として多くの課題があると考えられる。だが現在のところ、この教材を使用した研修が終了していないため、研修生に対して難易度は適当だったか、興味深く学習できるものだったか、何より筆者らの意図した学習目標が達成されたか、まだ検証することができていない。したがって、研修の終了を待って、教材を使用した研修生・指導教師の意見を参考にし、課題を明らかにしていく予定である。

現段階での課題を以下に示す。

- ・ 統合シラバスの利点をより活かす。たとえば語彙習得の面で、統合シラバスの授業においては同じ話題の語彙群が各技能の活動で繰り返し使用されることで、語彙の習得が促進されると考えられる。また、同じ話題を扱うので、あるタスクに取り組むことが他の技能のためのタスクの準備段階になるということもある。どちらも、教材作成の段階で各技能間の連携が必要であるが、今回はユニットを超えるまでには至らなかった。今後、有機的な学習効果をねらって、より意識的な連携を図りたい。
- ・ 日韓の言語行動比較のみに終始するタスクが多かったので、さらに他の文化圏にまで視野を広げる。
- ・ 実際に教材を使用する教師と教材作成者とが異なるので、作成の意図、学習のねらいが明確に伝わるよう、教師用マニュアルを作成する。これにより、研修生の能力に応じた学習量の調整もしやすくなると考えられる。
- ・ 研修生の負担軽減のため、タスクブックの語彙、表現等に韓国語訳を用意する。

今後、より実態に即した教材を目指し、以上に挙げた課題と研修終了後に明らかになるであろう課題に対応して、改訂をすすめていく予定である。

最後に、この作業を通じて感じた、異文化を題材とした教材作成の難しさについて述べたい。今回作成した教材は、筆者らの体験や直接行ったインタビューに基づいている。しかし、これが万人にあてはまるものでないことは言うまでもない。例えば、スキット「初対面」では韓国人女性が日本人女性に年齢や結婚といったプライベートな事柄を尋ねているが、韓国人と会った日本人の全てが同じ体験をしているわけでもなく、このようなプライベートな事柄は尋ねないという韓国人も当然いるだろう。スキット「言葉が短い！」に出てきたような言葉遣いはしないという日本人も当然いるだろう。今回は自己の内省を目的とし、あえて分かりやすいコミュニケーションギャップを想定した。コミュニケーションギャップを明確にするには、ステレオタイプの提示が最も近道だろう。しかし、できあがったスキットが、研修員の中に新たなステレオタイプを形成するのではないかという疑問がわく。ステレオタイプは異文化にはつきものであり、異文化理解の一助にもなる。その是非はともかく、今後このような異文化を題材とした教材を作成する場合、作成に関わる全員が、

ステレオタイプをどのように扱うかを再度検討し、それを教師用マニュアルに反映させる必要があるだろう。

7. おわりに

今回の教材作成は時間的制約があつて厳しいものだったが、ゼロから形のあるものを作り上げる喜びの感じられる作業だった。それは同時にチームで協力することの醍醐味でもあつた。筆者らが自由に活動できる場を与えてくださったことに感謝したい。多くの示唆を与えてくださった先生方、そしてご協力くださった筑波大学の留学生の方々、事務局の方々にも改めて謝意を表したい。

参考文献

- 浅野浩子・菊地史子(1999)『ホスピタリティの表現研究 ビジネス・マナー編』創成社
- 井出祥子(1997)『女性語の世界』明治書院
- 井出祥子(1983)「女らしさの言語学 - なぜ女性は女性語を使うのか」『講座日本語の表現 3 話し言葉の表現』水谷修編、筑摩書房：174-193
- 任榮哲他(2004)『箸とチョッカラク』大修館書店
- 小川早百合(1997)「現代の若者会話における文末表現の男女差」
http://www.asahi-net.or.jp/~dr4t-ogw/sayuri/txt_nihogo/wakamonokaiwa.htm
- 奥山洋子(2000)『質問と自己開示による情報収集の韓日比較 大学生同士の初対面の会話資料をもとに』韓国・中央大学校博士論文
- 奥山洋子(1995)『일본인은 이상해 한국사람 못말려』時事日本語社
- 川口容子(1987)「まじり合う男女のことば - 実態調査による現状」『言語生活』429：34-39
- 小林美恵子(1993)「世代と女性語 - 若い世代のことばの『中性化』について - 」『日本語学』5 月臨時増刊号：181-192
- 齊藤明美(2005)『ことばと文化の日韓比較』世界思想社
- ダニエル・ロング他編(2001)『応用社会言語学を学ぶ人のために』世界思想社
- ヘレン・スペンサー・オーティー(2004)『異文化理解の語用論』研究社
- 三宅和子(1994)「日本人の言語行動パターン - ウチ・ソト・ヨソ意識」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第9号 筑波大学：29-39
- 二階堂整(2001)「ジェンダーとことば」『応用社会言語学を学ぶ人のために』ダニエル・ロング他編、世界思想社：83-90
- 八代京子他(1998)『異文化トレーニング』三修社

資料1：聴解タスクシート

＜聴解＞

ユニット3. 言語行動の韓日比較

トピック5. 初対面

スキット1. 「初対面」

＜読解＞ユニット3. のトピック5の読み物2. 「年齢はおいくつですか?」に関連するスキットです。

見る前に

小さいグループで話し合ってください。

1. 韓国語では初対面の人と会ったとき、どのようなことを話題にしますか。
2. その中で、あなたが「聞かれたくないこと」がありますか。

見ましょう

スキット1. 「初対面」

このスキットには二人の女性が登場します。

北村さん：日本人。韓国の日本語学院で日本語を教えるために韓国に来たばかり。30代女性。

イムさん：韓国人。北村さんが働くことになった学院で日本語を教えている。30代女性。

〈 京畿道のアパートの前で 〉

まず、質問を読んで、考えながら見てください。(個人)

1回目

1. イムさんが北村さんに聞いたことに○をつけてください。
| 年齢 職業 住所 結婚 子供 出身 |
2. 北村さんがイムさんに聞いたことに○をつけてください。
| 年齢 職業 住所 結婚 子供 出身 |

2回目

1. 2人はそれぞれどんな様子ですか。

北村さん→

イムさん→

2. イムさんと北村さんについてわかったことは何ですか。() の中に言葉を入れてください。[]の中の正しいほうを選んでください。

	年齢	結婚	子供	夫
イムさん	()年 生まれ	して [いる /いない]	[()人い る/いない]	
北村さん	()年 生まれ	して [いる /いない]	[()人い る/いない]	() にいる

必要だったら先生からスクリプトをもらって、もう一度見てください。

クイズ

「北村さんはイムさんのことをどう思ったでしょうか。」まず、聞き取り練習をしましょう。そのあと、A～Cの中から1つ選んでください。

聞き取り練習 下の_____を聞き取って書いてください。

- A: 私に関心を持ってたくさん質問してくれた。親切だし、いい人だ。_____。
- B: _____人だ。時間があるときには会って話してみよう。
- C: プライベートなことを聞く_____人だ。こういう常識じょうしきのない人とは_____。

A～Cのどれだと思いますか。小さいグループで話してください。

心の声 それでは2人の心の声をきいてみましょう。

- 1回目 何も見ないで聞いてみてください。
- 2回目 下の_____を聞き取って書いてください。

心の声【イムさん】

資-3

近所に日本人が引っ越してきた。友達になりたいと思ってあいさつした。仲良くなるために色々質問してみたが、どうも今ひとつ①_____。結局、何歳なのかもわからなかった。これじゃ韓国語で話すときどうやって話したらいいのか、困ってしまう。

それに、私ばかり質問して、北村さんは②_____。私に興味がないのだろうか。③_____と思っているのだろうか。

心の声【北村さん】

近所に住んでいる日本語の先生に会った。日本語も話せるし、このあたりのことも知りたいし、仲良くしてもらいたいと思う。でも、初めて会ったのに①_____なことをずけずけ聞かれてびっくりした。あまり②_____がない人なのかもしれない。それに一人で勝手にしゃべってばかりで私はちっとも話せなかった。友達に③_____なあ。

* 一番近い答えは_____です。

資料2：聴解スキット「初対面」スクリプト

は音声なし。字幕のみ。

スキット1. 「初対面」

北：北村さん。日本人。30代女性。

イ：イムさん。韓国人。30代女性。〈韓国、京畿道で〉

北：はじめまして。北村です。どうぞよろしく申し上げます。

イ：こちらこそ、よろしく申し上げます。北村さん、韓国は初めてですか。

北：ええ。そうなんです。

イ：そうですね。あの、北村さん、おいくつですか。私は73年生（ねんせい）なんですけど。

北：ああ、ええっと、あ、たぶんイムさんと同じくらいなんじゃないでしょうか。

イ：あ、北村さん、結婚してるんですか。

北：あ、ええ、まあ、あの、でも…、主人は東京にいるんですけど…。

イ：お一人で。どうしてですか。さびしいでしょう。うちはね、主人と子供が二人いまして…。

かわいいですよ、子供は。北村さん、お子さんは？

北：えっと、まだ、いないんですけど…。

イ：そう。早くしないといけませんね。あ、北村さん、よかつたらお茶でも飲みに行きませんか。

北：あ、ありがとうございます。でも、あの、今日はちょっと、約束があって…。また今度にしましょう。それじゃ、失礼します。

イ：それじゃ、失礼します。

クイズ

「北村さんはイムさんのことをどう思ったでしょうか。」

A：私に関心を持ってたくさん質問をしてくれた。親切だし、いい人だ。友

達になりたい。

B：よく話す人だ。時間があるときには会って話してみよう。

C：プライベートなことを聞く失礼な人だ。こういう常識のない人と友達になるのは難しい。

心の声 イムさん

近所に日本人が引っ越してきた。友達になりたいと思ってあいさつした。仲良くなるために色々質問してみたが、どうも今ひとつはつきりしない。結局、何歳なのかもわからなかった。これじゃ韓国語で話すときどうやって話したらいいのか、困ってしまう。

それに、私ばかり質問して、北村さんは何も聞いてくれなかった。私に興味がないのだろうか。友達になりたくないと思っているのだろうか。

心の声北村さん

近所に住んでいる日本語の先生に会った。日本語も話せるし、このあたりのことも知りたいし、仲良くしてもらいたいと思う。でも、初めて会ったのにプライベートなことをずけずけ聞かれてびっくりした。あまり常識がない人なのかもしれない。それに一人で勝手にしゃべってばかりで私はちっとも話せなかった。友達になれそうもないなあ。

日本人はこのスキットを見て、どう思ったでしょうか。

1. (A：インタビューする人 B：男性)

A：今日はお忙しいところ、ご協力いただきありがとうございます。今見ていただいたビデオなのですが、いかがでしょうか。

B：やはり、会話ですすね、日本人同士の会話でしたら、ちょっと、(日本人)からみると、感覚的に、なんか、スムーズでない。違和感がある。

A：違和感がある。

B：はい。

A：スムーズでない。それは日本人側の言葉でしょうか、韓国人側の言葉で

しょうか。

B：やはり、韓国人側の人の会話の方が・・・違和感があります。

A：違和感がある。その違和感を感じられるのは、どの点に感じられるんでしょうか。

B：初対面で、ということなんで、その場合に、初対面での会話の中で年齢のこととか、家族の事柄を初対面で話すことは、通常日本で日本人が初対面で話す場合は、そういう会話の話題にはあがらないと思います。

A：あまりしない会話でしょうか。年齢のことなんですが、女性に聞くのはやはりためられますか。

B：日本の場合は、男性が女性に年齢のことを聞くことはタブーとされてますんで。

A：タブーですね、怒られますね。

B：逆に「何？」っていう顔をされますんで、そういうことはあり得ない。女性同士でもどうかなっていうところですけれども。

A：男性同士で、初対面で年齢を聞きあうということがありますか。

B：通常では最初から、年齢っていうのを、時と場合にもよるんですが、その話題にもよるんでしょうけど、普通年齢を聞くというのは、しばらく話題の中で、最初からは「私は何歳です」という自己紹介はしないと思うんです。

(後略)

資料3：読解タスクシート

<読解>

ユニット3. 日本人の言語行動

トピック1. 言語行動の韓日比較

予習

授業の前に準備しましょう。

名前 _____

1. 語彙リストを見て、読み方と意味を確かめてください。
2. 次の色々な表現を覚えていますか/知っていますか? 確かめてください。
①~④の中から5つ選んで例文を作ってください。選んだ番号を()
に書いてください。

読み物1. 「先生、きれい!」

- ① (v) ざま *振り向きざま、すれ違いざま
- ② ~たところ *50人にアンケートをとったところ、こんな回答が得られた。
- ③ ~べき *年上の人には敬語を使うべきだ。
- ④ ~ず *職場から家まではそれほど離れておらず、徒歩で通勤することも可能だ。
- ⑤ (N) とはいえ *その事故は、一瞬とはいえ、子供から目を離した親に責任がある。

読み物2. 「年齢はいくつですか?」

- ⑥ ~ともなれば *社長ともなれば、社員の起こした問題についても責任を取らなければならない。
- ⑦ ~ばかりでなく~も *権利を主張するばかりでなく、義務を果たすこと

- も大切だ。
- ⑧～(よう)とする *自分のことをたくさん話して、相手に理解してもらおうとする。
 - ⑨(当惑)げ *親しげに話しかける。
 - ⑩～ものだ *国が違えば考え方も違うということを感じておきたいものだ。
 - ⑪～とは限らない *誰でもすぐに親しくなれるとは限らない。
 - ⑫しかも *安くてもおいしいレストラン。
 - ⑬ともすれば *ともすれば運動不足になりがちだ。
 - ⑭まして *ひらがなも覚えられないのに、まして漢字が覚えられないはずがない。

()

()

()

()

()

..... 予習 ここまで

読み物 1. 「先生、きれい！」

読む前に

近くの人と話し合ってください。

1. 韓国語の「バンマル=非敬意体」はどんな人と話すときに使いますか。
2. 年下の人が年上の人にバンマルを使ってもいい場合がありますか。

読みましょう

*この読み物の筆者は、韓国の大学で日本語を教えている日本人女性です。

春先のある日のことである。筆者が勤務先の校内の階段を上がっていると、上から知人の英文学科の先生が降りて来た。その先生は、初春の花を思わせる淡いピンクのスーツを着ておられ、流行りのモノトーンファッションの学生が多い中、ひととき華やかに見える。踊り場付近ですれ違いざまに、思わず、(와, 교수님 예쁘다! 와! 키ョウスニム、イエップダ!) (ワー! 先生、きれい) と声をかけると、先生はちょっと困惑したような表情を浮かべ、(カムサハムニダ) とまじめな口調で言い、深々とお辞儀をして行ってしまわれた。

どうも(問2) 腑に落ちない反応だったので、後日この出来事について日本語学科の院生たちに解説を求めたところ、(問3) こんな答えが返ってきた。

問1. 次の文が本文の内容と合っているものには○、合っていないものには×を書いてください。

(例) 筆者はこの大学に勤めている。

(○)

(1) 筆者は知人の先生がとても美しいと感じた。

()

(2) 筆者は階段の下から、階段の上にいる知人に声をかけた。

()

(3) 知人は筆者にほめられて、困った顔をした。

()

(4) 知人はうれしかったので、ていねいにお辞儀をした。

()

(5) 知人の反応は筆者が期待したとおりでた。

()

問2. 「腑に落ちない反応」とありますが、筆者はどのような知人の反応を期待していたのでしょうか。

問3. 「こんな答え」とありますが、どんな答えが返ってきたと思いますか。次の本文を読む前に考えてみてください。近くの人と話し合ってください。

* では、「院生たちの答え」を読んでみましょう。

相手は地位も年齢も上なのだから、敬意を表す表現を使うべきだ、というのが共通した意見だった。つまり、(예쁘다 イエップダ) (きれい!) のような、相手への敬意を含まない非敬意体を用いるよりは (ア) < > 「きれいですね」なり、(イ) < > 「おきれいですね」なりといった、相手に何らかの敬意を表す敬意体を使って話すべきだったのだ。

問4. (ア) (イ) にはどんな韓国語が入りますか。

(ア) _____ (イ) _____

問5. 院生の答えは問3. であなたが考えたものと同じでしたか。

* 次に筆者の「心の声」を読んでください。筆者はなぜ、年上の先生に「非敬意体＝パンマル」を使って声をかけたのでしょうか。

確かに目上の相手に敬意体を使わなかった筆者は、先生の目には生意気で礼儀知らずに映ったかもしれない。しかし、この先生とは年齢もそれほど離れておらず、また韓国の生活に慣れていない筆者を気遣ってくださり、個人的に親しみを感じていた相手だったのだ。そのために筆者としては「敬語／敬意体」で接すべき相手との談話中に、一瞬とはいえ、「常体／非敬意体」を織り交ぜることにより、相手との心的距離を縮める効果を期待していたのだ。

問6. 筆者の気持ちを想像して、()に適切な言葉を入れてください。

先生は私のことを()と思っただろう。でも先生とは年が()。それに先生は、いつも私のことを心配してくれる()人だ。友達の言葉を使うことで、私の気持ちを先生に伝えたい。

問7. 「先生」はどのように感じたでしょうか。先生の気持ちを想像して「心の声」を書いてください。

読んだあとで

近くの人と話し合ってください。事実と意見を分けて考えてください。話し合ったことをまとめて書いてみましょう。

1. 年齢と言葉遣いの関係について、韓国と日本ではどんな違いがありますか。【事実】
2. 読み物1. の筆者にどのようなアドバイスをしますか。【意見】